

平成17年11月11日

(社) 日本橋梁建設協会

日本橋梁建設協会 活動報告

日本橋梁建設協会では、5月20日の第47回通常総会をもって組織が改編され、協会活動の一層の充実をはかることになった。

協会の今後の活動方針としては、「委員会活動の重点化・効率化」、「広報活動の強化」、「調達方式の新しい流れへの対応」、「市場規模の変化への対応支援」等である。

新組織は企画委員会、契約制度委員会、技術委員会、保全委員会、品質・マネジメント委員会、安全委員会の6委員会で構成され、委員は会員各社からの公募によって決められた。

技術委員会は設計小委員会、製作小委員会、架設小委員会、床版小委員会、鋼製橋脚特別委員会、鋼床版検討特別委員会で構成されている。

技術委員会の重点活動方針としては、「鋼橋および鋼・コンクリート複合橋の積極的なPR活動」、「要求性能を満足し、品質のよい鋼橋および鋼・コンクリート複合橋が安く・早く建設できる環境の整備」、「道路全体を見据えた技術開発」等である。

保全委員会は保全企画小委員会と保全技術小委員会で構成され、技術面での主な活動テーマは保全工事における安定した品質の確保や工事の安全施工を確保するための各種規格・基準・マニュアルの整備や保全新技術への取組み等である。

品質・マネジメント委員会は品質小委員会とマネジメント小委員会で構成されている。

品質は基本的に各社の問題であるが、品質が今まで以上に重要な要素になる流れの中で、業界全体の品質の確保・向上を図ることが必要であり、そのための情報の水平展開やマネジメントの確立をサポートする活動を推進して行く。

また、昨年度から実施している橋梁技術発表会は今年度は各地区毎に実施中である。

以上